

学校名		相知小学校	
-----	--	-------	--

1前年度
評価結果の概要

・学力向上はじめ全ての取組について、共通して実践していく内容について全職員で共通理解をすることができた。今後は外遊びの奨励及び朝食喫食率の向上に向けての具体的な取組を進めていく。
・業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直す。引き続き、職員個々の意識高揚を図りながら、超過勤務削減に努める。
・今後もふるさとに誇りをもつ児童を育てていくために、保護者、地域、学校のつながりをより緊密なものにしていきたい。

2学校教育目標

保護者や地域と共に創る！ やる気 やさしさ えがお あふれる相知小 ONE TEAM!!
～ おちついて うてくんで ちえをだしあう 相知っ子！ にこ・きび・はき・どん！！ ～

3本年度の重点目標

・自ら課題を見つけ、考え、挑戦し、健康な心や体作りに取り組む子どもを育てる。
・自ら律しつつ、互いのよさや成長を認め合い、やり遂げた喜びを実感する子どもを育てる。
・自ら課題を見つけ、考え、学んだことを活用しながら、探求する子どもを育てる。

4重点取組内容・成果指標	5最終評価																																																																																					
(1)共通評価項目																																																																																						
<table><tr><th rowspan="2">評価項目</th><th colspan="2">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th><th colspan="2">最終評価</th></tr><tr><th>取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>達成度 (評価)</th><th>実施結果</th></tr><tr><td rowspan="2">●学力の向上</td><td>●全職員による共通理解と共通実践</td><td>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。</td><td>・マイプランに特化した職員研修 ・定期的な唐津市学力向上シートによる自己評価</td><td>A</td><td>ラーニングマウンテンにより単元の目標と日々の授業のめあての関連が明確化された。これにより校内研で取り組んでいる「思考のキーワード」の、どの項目を重視した活動を取り入れた話し合い活動がより効果的かはっきりし、質の高い話し合い活動が行えるようになった。</td></tr><tr><td>○交流活動の充実による思考力の向上</td><td>○児童に学習意識調査を行い、「交流活動をすることで学習がよくわかる」という質問に対して肯定的に答える児童の割合が80%以上。</td><td>・児童が主体的に問題を解決できるように、交流活動の前に目的や、考えを整理する観点を明確に示しておく。</td><td>A</td><td>・児童の意識調査では「交流活動をすることで友達の考えのよさを見つける」「新しい考えに気付く」という質問に対して、肯定的に答える児童の割合がそれぞれ、83%と85%であった。授業の中で、グループで話し合い、意見を交流する活動が低学年のうちから定着している。</td></tr><tr><td rowspan="4">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>●児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。</td><td>・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認める。 ・人権意識を高めるための取り組みとして、全校人権集会を年1回、なかよしタイムを年7回実施する。</td><td>A</td><td>・保護者の「学校は仲間づくりに取り組んでいる」に肯定的な評価をした保護者が94%であった。人権への取り組みや、普段のトラブル対応、道徳の学習の効果が児童にも保護者にも伝わってきている。</td></tr><tr><td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td><td>●いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答する職員を90%以上にする。</td><td>・いじめの覚知・認知に対するマニュアルをもとに共通理解の周知徹底と見直しを行う。 ・いじめが起きないように学級風土づくり、学級経営についての研修を年3回以上行う。</td><td>A</td><td>・組織内での伝達体系が確立され、担任、生徒指導、管理職が一体となって、素早く、適切に対応することができるようになってきた。 ・生活指導協議会の中でも、クラス作りや集団作りに対する提言をすることができた。 ・6年生の人権学習の取り組みを学級活動に生かすようお願いができた。</td></tr><tr><td>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</td><td>◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)を80%以上にする。</td><td>・各種体験活動では、児童生徒に活動の目標設定、活動の見通しと学びの振り返りを必ず行う。</td><td>A</td><td>・6年生で行った「ようこそ先輩」の学習によって、将来の遠慮を持ったり、働くことの意義について深く考えた児童が増えた。</td></tr><tr><td>○(学校独自重点取組・任意)</td><td>○</td><td>・</td><td></td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="2">●健康・体づくり</td><td>〃次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」</td><td>●昼休みに外遊びを行う児童の比率を60%以上にする。</td><td>・運動場の決められた遊び場所や道具の使い方についての指導を行う。 ・雨の日は学年割りで体育館を開放する。 ・外遊びを奨励する放送を行う。</td><td>A</td><td>・前期に引き続き、運動場の決められた遊び場所や道具の使い方について、指導及び掲示を行った。前・後期間を通じて、運動場及び体育館での遊び方に大きな問題は見られなかった。 ・体育的行事との関連をもたせながら、外遊びを奨励し、運動習慣の改善に努めた。冬季では、外遊びをする児童の割合は微減したので、継続して奨励していく。 ・本校の教育活動アンケートにおいて、運動や外遊びに関する質問への肯定的な回答の割合が95%だった。</td></tr><tr><td></td><td>●朝食を摂って登校する児童を95%以上にする。</td><td>・給食だよりや保健だよりで朝食摂取の効果を掲載し、家庭への啓発を行う。 ・体調不良で来室した児童へ朝食摂取の聞き取りを行い、必要があれば指導する。</td><td>A</td><td>・給食だよりや掲示物を通して、朝食摂取の効果や必要性について家庭や児童への啓発を行うことができた。 ・朝食喫食率が95%超とほぼ目標通りだった。摂食をしない理由として、「朝は時間がない」と言う児童もみられるため、朝食摂取の必要性とともに、生活リズムの向上についても発信していきたい。</td></tr><tr><td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td><td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</td><td>・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・年間において月の平均時間外在校等時間45時間以内を遵守する。 ・全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。</td><td>B</td><td>・現在、月平均時間外在校等時間については、約36時間となっており目標を達成している。しかし、目標を達成できていない職員が若干名いることから、引き続き職員に応じた働きかけを行っていく。</td></tr><tr><td>○(学校独自重点取組・任意)</td><td>○(学校独自成果指標・任意)</td><td>・</td><td></td><td>・</td></tr></table> (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 <table><tr><th rowspan="2">評価項目</th><th colspan="2">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th><th colspan="2">最終評価</th></tr><tr><th>重点取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>達成度 (評価)</th><th>実施結果</th></tr><tr><td>○特別支援教育の充実</td><td>○特別支援教育の体制づくりと支援の充実</td><td>○対象児童の共通理解や職員間の情報共有を図り、支援体制を整えながら、よりよい支援の充実を図る。</td><td>・適宜、ケース会議を開き、職員間で支援体制の共通理解を図る。 ・スクールカウンセラーによる特別支援教育の職員研修を行う。</td><td>A</td><td>・新規入級児童が多かった。保護者面談や園との情報共有をしっかりと行い、入級につなげることができた。また、体験する時間を取ったりしたこと、来年度から入級に向けてスムーズな移行できている。</td></tr><tr><td>○保護者・地域との連携</td><td>○育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の充実</td><td>○生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動をさらに充実させることを通して、地域の方との交流を図り、ふるさと相知に誇りをもつ児童80%以上を目指す。</td><td>・体験活動については、例年以上の達成回数を目標とするが、併せて内容の充実にも取り組み、ふるさと相知に誇りをもつ児童を育てる。</td><td>A</td><td>・教員の「体験活動を通して、地域の方との交流をはかることができている」については90%であり、児童の「体験活動では、地域の方とかかわりながら熱心に活動しているか」については95%ができていると回答した。年度末には今年度の取組をふりかえり、内容の精選、充実を図る。</td></tr></table> ●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 5総合評価・ 次年度への展望 ・学力向上はじめ全ての取組については、外部講師の招聘、全員による研究授業を通して、研究内容等の共通理解を図り、深め、実践していくことができた。今後も、次年度へ向けた更なる取組の深化を推し進める。 ・業務改善については、業務内容の精選、見直し、校務の整理を行うことで、次年度へ向けての「業務改善」の視点からの取組を行ってきた。次年度も引き続き職員の意識づけを行っていく。 ・今後もふるさとに誇りをもつ児童を育てていくために、保護者、地域、学校のつながりをより緊密なものにしていく。	評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	・マイプランに特化した職員研修 ・定期的な唐津市学力向上シートによる自己評価	A	ラーニングマウンテンにより単元の目標と日々の授業のめあての関連が明確化された。これにより校内研で取り組んでいる「思考のキーワード」の、どの項目を重視した活動を取り入れた話し合い活動がより効果的かはっきりし、質の高い話し合い活動が行えるようになった。	○交流活動の充実による思考力の向上	○児童に学習意識調査を行い、「交流活動をすることで学習がよくわかる」という質問に対して肯定的に答える児童の割合が80%以上。	・児童が主体的に問題を解決できるように、交流活動の前に目的や、考えを整理する観点を明確に示しておく。	A	・児童の意識調査では「交流活動をすることで友達の考えのよさを見つける」「新しい考えに気付く」という質問に対して、肯定的に答える児童の割合がそれぞれ、83%と85%であった。授業の中で、グループで話し合い、意見を交流する活動が低学年のうちから定着している。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。	・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認める。 ・人権意識を高めるための取り組みとして、全校人権集会を年1回、なかよしタイムを年7回実施する。	A	・保護者の「学校は仲間づくりに取り組んでいる」に肯定的な評価をした保護者が94%であった。人権への取り組みや、普段のトラブル対応、道徳の学習の効果が児童にも保護者にも伝わってきている。	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答する職員を90%以上にする。	・いじめの覚知・認知に対するマニュアルをもとに共通理解の周知徹底と見直しを行う。 ・いじめが起きないように学級風土づくり、学級経営についての研修を年3回以上行う。	A	・組織内での伝達体系が確立され、担任、生徒指導、管理職が一体となって、素早く、適切に対応することができるようになってきた。 ・生活指導協議会の中でも、クラス作りや集団作りに対する提言をすることができた。 ・6年生の人権学習の取り組みを学級活動に生かすようお願いができた。	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)を80%以上にする。	・各種体験活動では、児童生徒に活動の目標設定、活動の見通しと学びの振り返りを必ず行う。	A	・6年生で行った「ようこそ先輩」の学習によって、将来の遠慮を持ったり、働くことの意義について深く考えた児童が増えた。	○(学校独自重点取組・任意)	○	・		・	●健康・体づくり	〃次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	●昼休みに外遊びを行う児童の比率を60%以上にする。	・運動場の決められた遊び場所や道具の使い方についての指導を行う。 ・雨の日は学年割りで体育館を開放する。 ・外遊びを奨励する放送を行う。	A	・前期に引き続き、運動場の決められた遊び場所や道具の使い方について、指導及び掲示を行った。前・後期間を通じて、運動場及び体育館での遊び方に大きな問題は見られなかった。 ・体育的行事との関連をもたせながら、外遊びを奨励し、運動習慣の改善に努めた。冬季では、外遊びをする児童の割合は微減したので、継続して奨励していく。 ・本校の教育活動アンケートにおいて、運動や外遊びに関する質問への肯定的な回答の割合が95%だった。		●朝食を摂って登校する児童を95%以上にする。	・給食だよりや保健だよりで朝食摂取の効果を掲載し、家庭への啓発を行う。 ・体調不良で来室した児童へ朝食摂取の聞き取りを行い、必要があれば指導する。	A	・給食だよりや掲示物を通して、朝食摂取の効果や必要性について家庭や児童への啓発を行うことができた。 ・朝食喫食率が95%超とほぼ目標通りだった。摂食をしない理由として、「朝は時間がない」と言う児童もみられるため、朝食摂取の必要性とともに、生活リズムの向上についても発信していきたい。	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・年間において月の平均時間外在校等時間45時間以内を遵守する。 ・全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。	B	・現在、月平均時間外在校等時間については、約36時間となっており目標を達成している。しかし、目標を達成できていない職員が若干名いることから、引き続き職員に応じた働きかけを行っていく。	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・	評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	○特別支援教育の充実	○特別支援教育の体制づくりと支援の充実	○対象児童の共通理解や職員間の情報共有を図り、支援体制を整えながら、よりよい支援の充実を図る。	・適宜、ケース会議を開き、職員間で支援体制の共通理解を図る。 ・スクールカウンセラーによる特別支援教育の職員研修を行う。	A	・新規入級児童が多かった。保護者面談や園との情報共有をしっかりと行い、入級につなげることができた。また、体験する時間を取ったりしたこと、来年度から入級に向けてスムーズな移行できている。	○保護者・地域との連携	○育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の充実	○生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動をさらに充実させることを通して、地域の方との交流を図り、ふるさと相知に誇りをもつ児童80%以上を目指す。	・体験活動については、例年以上の達成回数を目標とするが、併せて内容の充実にも取り組み、ふるさと相知に誇りをもつ児童を育てる。	A	・教員の「体験活動を通して、地域の方との交流をはかることができている」については90%であり、児童の「体験活動では、地域の方とかかわりながら熱心に活動しているか」については95%ができていると回答した。年度末には今年度の取組をふりかえり、内容の精選、充実を図る。
評価項目		重点取組			具体的取組	最終評価																																																																																
	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果																																																																																		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	・マイプランに特化した職員研修 ・定期的な唐津市学力向上シートによる自己評価	A	ラーニングマウンテンにより単元の目標と日々の授業のめあての関連が明確化された。これにより校内研で取り組んでいる「思考のキーワード」の、どの項目を重視した活動を取り入れた話し合い活動がより効果的かはっきりし、質の高い話し合い活動が行えるようになった。																																																																																	
	○交流活動の充実による思考力の向上	○児童に学習意識調査を行い、「交流活動をすることで学習がよくわかる」という質問に対して肯定的に答える児童の割合が80%以上。	・児童が主体的に問題を解決できるように、交流活動の前に目的や、考えを整理する観点を明確に示しておく。	A	・児童の意識調査では「交流活動をすることで友達の考えのよさを見つける」「新しい考えに気付く」という質問に対して、肯定的に答える児童の割合がそれぞれ、83%と85%であった。授業の中で、グループで話し合い、意見を交流する活動が低学年のうちから定着している。																																																																																	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。	・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認める。 ・人権意識を高めるための取り組みとして、全校人権集会を年1回、なかよしタイムを年7回実施する。	A	・保護者の「学校は仲間づくりに取り組んでいる」に肯定的な評価をした保護者が94%であった。人権への取り組みや、普段のトラブル対応、道徳の学習の効果が児童にも保護者にも伝わってきている。																																																																																	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答する職員を90%以上にする。	・いじめの覚知・認知に対するマニュアルをもとに共通理解の周知徹底と見直しを行う。 ・いじめが起きないように学級風土づくり、学級経営についての研修を年3回以上行う。	A	・組織内での伝達体系が確立され、担任、生徒指導、管理職が一体となって、素早く、適切に対応することができるようになってきた。 ・生活指導協議会の中でも、クラス作りや集団作りに対する提言をすることができた。 ・6年生の人権学習の取り組みを学級活動に生かすようお願いができた。																																																																																	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)を80%以上にする。	・各種体験活動では、児童生徒に活動の目標設定、活動の見通しと学びの振り返りを必ず行う。	A	・6年生で行った「ようこそ先輩」の学習によって、将来の遠慮を持ったり、働くことの意義について深く考えた児童が増えた。																																																																																	
	○(学校独自重点取組・任意)	○	・		・																																																																																	
●健康・体づくり	〃次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	●昼休みに外遊びを行う児童の比率を60%以上にする。	・運動場の決められた遊び場所や道具の使い方についての指導を行う。 ・雨の日は学年割りで体育館を開放する。 ・外遊びを奨励する放送を行う。	A	・前期に引き続き、運動場の決められた遊び場所や道具の使い方について、指導及び掲示を行った。前・後期間を通じて、運動場及び体育館での遊び方に大きな問題は見られなかった。 ・体育的行事との関連をもたせながら、外遊びを奨励し、運動習慣の改善に努めた。冬季では、外遊びをする児童の割合は微減したので、継続して奨励していく。 ・本校の教育活動アンケートにおいて、運動や外遊びに関する質問への肯定的な回答の割合が95%だった。																																																																																	
		●朝食を摂って登校する児童を95%以上にする。	・給食だよりや保健だよりで朝食摂取の効果を掲載し、家庭への啓発を行う。 ・体調不良で来室した児童へ朝食摂取の聞き取りを行い、必要があれば指導する。	A	・給食だよりや掲示物を通して、朝食摂取の効果や必要性について家庭や児童への啓発を行うことができた。 ・朝食喫食率が95%超とほぼ目標通りだった。摂食をしない理由として、「朝は時間がない」と言う児童もみられるため、朝食摂取の必要性とともに、生活リズムの向上についても発信していきたい。																																																																																	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・年間において月の平均時間外在校等時間45時間以内を遵守する。 ・全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。	B	・現在、月平均時間外在校等時間については、約36時間となっており目標を達成している。しかし、目標を達成できていない職員が若干名いることから、引き続き職員に応じた働きかけを行っていく。																																																																																	
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・																																																																																	
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価																																																																																		
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果																																																																																	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の体制づくりと支援の充実	○対象児童の共通理解や職員間の情報共有を図り、支援体制を整えながら、よりよい支援の充実を図る。	・適宜、ケース会議を開き、職員間で支援体制の共通理解を図る。 ・スクールカウンセラーによる特別支援教育の職員研修を行う。	A	・新規入級児童が多かった。保護者面談や園との情報共有をしっかりと行い、入級につなげることができた。また、体験する時間を取ったりしたこと、来年度から入級に向けてスムーズな移行できている。																																																																																	
○保護者・地域との連携	○育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の充実	○生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動をさらに充実させることを通して、地域の方との交流を図り、ふるさと相知に誇りをもつ児童80%以上を目指す。	・体験活動については、例年以上の達成回数を目標とするが、併せて内容の充実にも取り組み、ふるさと相知に誇りをもつ児童を育てる。	A	・教員の「体験活動を通して、地域の方との交流をはかることができている」については90%であり、児童の「体験活動では、地域の方とかかわりながら熱心に活動しているか」については95%ができていると回答した。年度末には今年度の取組をふりかえり、内容の精選、充実を図る。																																																																																	